

令和4年度 基本施策評価シート

作成日 令和4年7月5日

基本施策	G2 だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	市民が	自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行って	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		221ページ ~ 222ページ	
基本施策主管課名	生涯学習課	所属長名	金原 久美子
関係課名	市立図書館、都市経営室		

基本施策の振返り

後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み(H28~R3年度)	
個別施策	G2-1	学習に取り組める場と機会の充実を図ります	
<p>ア 市民の学習要求や形態のニーズに応じた学習環境の整備</p> <p>イ 幅広い世代の学習機会の充実</p> <p>ウ 地域の歴史・文化・自然等の学びを通して地域に対する興味・関心を高め、コミュニティ意識を醸成</p> <p>エ だれもがいきいきと暮らしていくため、現代的課題・地域課題の解決</p>	⇒	<p>(ア) 公民館等の生涯学習施設において、地域住民の関心があるテーマに基づく講座を開設するほか、それぞれの施設の目的に沿った各種イベントを実施</p> <p>(イ) 市立図書館は、市民や地域に役立つ情報拠点の施設として定着</p> <p>(ウ) 科学館展示室のリニューアル</p> <p>(エ) 老朽化した日吉青年の家を廃止し、新築した日吉自然の家を供用開始</p> <p>(オ) 長崎半島から多数発見されている多種多様な化石を中核テーマとした調査研究や資料収集・展示及び教育活動支援を行うため、恐竜博物館を開館</p> <p>(カ) 若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる仕組みづくり</p>	
個別施策	G2-2	能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります	
<p>ア 市民の能力や経験を地域の中で活かし、地域の活性化やまちづくりにつながるための仕組みの整備、活用</p>	⇒	<p>(ア) 生涯学習における人材情報の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」の登録情報を整理し、各公民館に公民館講座の講師の登録について協力依頼 ・公民館の類似施設であるふれあいセンターに対しても、講師情報の提供 <p>(イ) ボランティアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が自ら公民館を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的とし、公民館支援ボランティアによる、講座の企画、立案、実施 ・図書館ボランティアの活動を通じ、市民と協働し、より良い図書環境を構築 	



成果及び効果 (H28～R3年度)		
個別施策	G2-1	学習に取り組める場と機会の充実を図ります
<p>②講座開設の取組み</p> <p>・公民館等の生涯学習施設においては、平成28年度から平成30年度までの間、利用者数は年間約265万～270万人で推移し、また、講座や教室への参加者数は年々増加し、多くの市民に学びの機会の提供がなされてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度からの2年間は、施設利用者、講座等への参加者数ともに減少に転じた。しかしながら、コロナ禍においても学びを止めないために、新たにオンライン形式の講座を開設したことや、可能な限りの感染症対策を行ったうえで対面形式での講座受講の機会を提供したこと、また、新たな生涯教育施設である恐竜博物館の開館などにより、令和3年度は再び増加に転じた。</p> <p>なお、公民館講座受講者へのアンケートでは、満足した受講者の割合が高い水準で推移しており、市民の意欲に沿った学びの提供ができています。</p>		
<p>③図書館の運営</p> <p>・市立図書館は、市民や地域に役立つ情報拠点として、主催事業の開催に合わせて関連する書籍を紹介することで、貸出者数や貸出冊数の増加につながってきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う入館等の制限により実施期間の終盤に再び利用が減少した。</p> <p>・図書館ボランティアの活動(期間中延10,210人)やコロナ禍における取組みとして、令和3年度に電子図書館を導入し、自宅にいながら読書を継続できる環境の整備などにより、より良い図書環境をつくることができた。</p>		
<p>④科学館の運営</p> <p>・科学館の展示室を長崎と科学にまつわるエピソードを学びながら、科学に関する興味関心を持ち、学習意欲を高める効果を図った内容に平成30年12月にリニューアルしたことにより、平成30年12月から平成31年1月の利用者数は、前年同時期の利用者数より9,853人増加した。展示室に体験型のアイテムを取り入れたり、映像機器の更新をするなど時代に合った展示内容としたことで、科学に関する知識の普及・啓発の場としての利用が促進され、学びの環境・機会の充実につながった。コロナ禍において、令和2年度の利用者数は前年度の半数にまで減ったが、令和3年度は企画展の内容を変更したり、日程を変更し開催したことなどにより、令和2年度に比べて休館期間は長くなったものの、利用者数は増加した。</p>		
<p>⑤恐竜化石等研究調査 ⑥恐竜博物館の建設・運営</p> <p>・福井県立恐竜博物館との共同研究により、1,500点以上の恐竜化石等が発見された。新たに発見された恐竜化石等を含め、令和3年10月に開設された恐竜博物館において展示することで、市民が長崎の恐竜について興味を持ち、自ら学ぼうとする学習機会の整備が図られた。</p>		
<p>⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり</p> <p>・若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場が定着してきたことで、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考える機会が増加した。</p>		
<p>⑧日吉自然の家の運営</p> <p>・「日吉青年の家」の老朽化に伴う新築建て替えの過程において、施設の設置目的を「青少年の健全な育成を図るため」から「豊かな自然環境の中で集団生活及び野外活動を通じて少年の健全育成を図るとともに、自然に親しむ機会を提供することにより市民の生涯学習を図るため」に見直し、平成28年4月から「日吉自然の家」として供用を開始した。</p> <p>新築により宿泊定員が増となったことや市立小学校5年生を対象とした宿泊体験学習での利用が開始されたこと、また、青少年に限らず一般の市民利用も可能となったことなどから、自然体験学習を中心とした市民の学習機会の充実につながっており、利用者数は大幅に増加した(平成27年度10,874人→コロナ影響前の令和元年度31,068人)。</p>		
個別施策	G2-2	能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります
<p>①生涯学習における人材情報の充実</p> <p>・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」の登録者に関しては、県が運営するホームページ「ながさきまなびネット」と連携し、講師情報として広く発信しており、公民館、ふれあいセンター等の幅広い分野での講座開設につながっている。</p>		

問題点とその要因(H28～R3年度)		
個別施策	G2-1	学習に取り組める場と機会の充実を図ります
<p>②講座開設の取組み ・「自らテーマをもって学習活動に取り組んでいる市民の割合」が低く、4割を切る状態が続いている。この要因としては、講座等の情報発信が不足していること、市民にとって魅力的な講座内容となっていないこと、就労者にとって時間帯が合致しないことなどが考えられる。</p>		
<p>③図書館の運営 ・図書館は来館して利用する施設のため、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い臨時休館や開館時間の短縮などで入館を制限したことから、利用が激減した。また、令和3年度に電子図書館を導入することで、コロナ禍でも、自宅にいながら読書を継続できる環境を整備したものの、市民への利用促進に向けた周知が十分にできていないため、電子図書館の利用が低迷している。</p>		
<p>⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり ・チャレンジできる仕組みを構築するにあたり、「ながさき若者会議」の取組みをはじめ若者の活動を支援する体制が十分とは言えない。</p>		
個別施策	G2-2	能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります
<p>①生涯学習における人材情報の充実 ・生涯学習に関する人材バンク登録者数、地域の学習活動等への参加者数はともに減少しており、制度や活動内容の周知不足が要因と考えられる。</p>		

今後の取組方針

【】内は五次総合計画における個別施策

G2-1

②講座開設の取組み → 【G2-1 学びの場と機会の充実を図ります】

・公民館の講座等の周知にあたっては紙媒体、電子媒体を対象者ごとに使い分け効果的な情報発信に努める。また、地域課題等の把握に努め課題に即した講座を企画したり、子どもと保護者が一緒に受けられる講座を企画することなどで、講座の魅力を高めていく。併せて土日、祝日、夜間の講座やオンライン講座を企画することで参加しやすい環境づくりに努める。

③図書館の運営 → 【G2-1 学びの場と機会の充実を図ります】

・市立図書館では、市民や地域に役立つ情報拠点として、来館者向けに時節や特定のテーマにあわせて図書を紹介したり、主催事業の開催に合わせ関連する図書を紹介したりすることで、来館者と本を結びつけ、利用の促進を図る。また、非来館型サービスである電子図書館の利用促進のために、様々な広報媒体及び関係機関との連携により電子図書館の周知を図る。

④科学館の運営 → 【G2-1 学びの場と機会の充実を図ります】

・科学館は、科学に関する知識の普及及び啓発並びに科学教育の振興を図る場であり、展示室等を利用した科学実験・工作による科学の不思議さを学べる取組みを充実させるとともに、Wi-Fi環境の整備に伴うインターネットを活用した新たな事業の実施に努める。

⑥恐竜博物館の建設・運営 → 【G2-1 学びの場と機会の充実を図ります】

・恐竜博物館は、市民が長崎の恐竜について興味を持ち、自ら学ぼうとする学習の場として、新規来館者やリピーターの確保につながるよう、標本や資料の整備をはじめ、展示の拡充などに取り組み、学習の場としての機能を高める。

⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり → 【G2-1 学びの場と機会の充実を図ります】

・「ながさき若者会議」の持続可能な運営の実現に向け、民間等と連携した若者の支援体制の充実を図る。

⑧日吉自然の家の運営 → 【G2-1 学びの場と機会の充実を図ります】

・日吉自然の家では、引き続き、自然に親しむ体験学習の場を提供していくが、GIGAスクール構想の下、児童生徒に1人1台の学習用端末機器が配布され、学習環境が大きく変化する中で、子どもたちが日吉自然の家での活動を通じて触れた動植物や食材などの調べ学習をする際に、端末機器が使用できるようWi-Fi環境を整備し、より良い体験学習の場の提供に努める。

G2-2

②ボランティアの活用 → 【G2-2 能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります】

・ボランティアへの関心を高めるため、活動内容の周知を効果的に行い、潜在的な貴重な経験や能力、モチベーションを掘り起こす。

・第三次長崎市子ども読書活動推進計画に基づき、読書環境を整備し、読書活動を推進するため、図書ボランティアの育成を図る。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
自らテーマをもって学習活動に取り組んでいる市民の割合	38.7% (26年度)	↑ 目標値	39.0	40.0	41.0	42.0	43.0	40.0
		実績値	35.9	37.2	36.8	38.4	39.5	36.7
		達成率	92.1%	93.0%	89.8%	91.4%	91.9%	91.8%
生涯学習施設等の利用者数	2,740千人 (26年度)	↑ 目標値	2,758	2,774	2,790	2,806	2,822	2,741
		実績値	2,652	2,649	2,739	2,498	1,673	1,705
		達成率	96.2%	95.5%	98.2%	89.0%	59.3%	62.2%
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	25.6% (27年度)	↑ 目標値	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0	36.0
		実績値	26.3	24.6	23.4	33.9	30.2	41.1
		達成率	101.2%	91.1%	83.6%	116.9%	100.7%	114.2%

基本施策の評価

Cc 目標を一部達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

判断理由

基本施策の成果指標3つのうち、100%以上の目標達成率が半数以下の1つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「C」とする。

個別施策の成果指標7つのうち、100%以上の目標達成率が半数以下の1つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

二次評価(施策評価会議による評価)

●基本施策の評価「Cc」については、所管評価のとおり。

●「成果や効果」のG-2「③図書館の運営」に、令和3年度に開館した電子図書館に関する成果や効果を明記すること。

●「ながさき若者会議」については、異なる分野で頑張っている若者同士の交流の場を作ることで刺激を受けたり、つながりが広がっていくことから、引き続き、取組みを進めることで、若者の交流を広げ、多くの若者の声をまちづくりに取り入れ、若者にとって魅力あるまちづくりを進めていくこと。

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	G2-1	学習に取り組める場と機会の充実を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図		
	市民が	身近な生涯学習施設で集い・交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代的課題・地域課題等を学んでいる。		
個別施策主管課名	生涯学習課	所属長名	金原 久美子	

令和3年度 of 取組概要

- ①学習開放事業
 - ・地域における生涯学習活動の場として、小学校3校の会議室等を開放した。
- ②講座開設の取組み
 - ・地域住民の関心があるテーマに基づく講座を開催するほか、社会生活で直面する問題を解決するための講座を実施し、住民の教養の向上、情操の育成を図った。
 - ・町立公民館、ふれあいセンターにおいても地域課題等について、その解決のための自主的学習をすすめるために講座に対する謝礼金や講師紹介等の補助を行った。
- ③図書館の運営
 - ・市民や地域に役立つ情報拠点として、図書資料の系統的な収集、整理、貸出を行うほか、市民の読書活動を推進するため、「おはなし会」、「はじめまして絵本事業」など各種事業を実施した。また、「図書館を使った調べる学習コンクール」では、図書館にある豊富な資料を活用した調べる学習を通じて、児童生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を再認識していただくことで、図書館の利用促進を図った。
 - ・コロナ禍における取組みとして、電子書籍貸出サービス(電子図書館)を導入するとともに、電子書籍の整備拡充を図った。
 - ・第三次長崎市子ども読書活動推進計画を策定した。
- ④科学館の運営
 - ・科学に関する知識の普及及び啓発並びに科学教育の振興を図り、市民の文化の向上に資するため、科学について体験を通して楽しく学習できる科学教室や、より多くの子どもたちに科学の不思議さや面白さを学ぶ機会を提供するため出前サイエンス教室を実施するなどの各種事業を行った。
 - ・新型コロナウイルス感染症対策の第三者認証制度である「team NAGASAKI SAFETY」の認証を受けるとともに、臨時休館となった期間に開催予定であった事業を日程変更のうえで開催するなど、コロナ禍の中でも工夫して運営を行うことで科学に関する知識の普及を図った。
- ⑤恐竜化石等研究調査
 - ・平成24年度から福井県立恐竜博物館と共同調査を実施している長崎半島の三ツ瀬層において、多くの貴重な化石を発掘した。
- ⑥恐竜博物館の建設・運営
 - ・長崎市産の恐竜を中核テーマとした博物館を建設し、令和3年10月に開館した。
 - ・恐竜博物館と出島メッセ長崎及びオランダの博物館をオンラインでつなぎ、子ども国際シンポジウムを開催するとともに、恐竜の全身骨格のレプリカを展示した。
- ⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり
 - ・15～34歳の若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場として令和2年度に立ち上げた「ながさき若者会議(以下、「若者会議」という。)」の運営を継続するとともに、持続的に運営できる体制等について、参加者とともに検討を進めた。
 - ・「若者会議」の参加者全員に案内を行う全体会議の月1回程度の開催やSNS等を活用した参加者間の日常的なコミュニケーションなどにより、活動のブラッシュアップや新たな企画の創出を図った。
 - ・令和3年11月に開催された「長崎開港フェスタ450」において、若者が考える未来を表現する「未来のエリア」をながさき若者会議が運営した。
 - ・「若者会議」の参加者の取組みにより、若者の活動等に関する情報を発信するホームページが構築された。

評価(成果)

①学習開放事業

・市立学校の施設などを学校教育に支障のない範囲で、地域の人々の学習や研修の場として開放することで、地域における生涯学習の活動が広がった。
・3校の会議室等で延べ858回開放し10,631人が利用した。

②講座開設の取組み

・中央公民館では「Zoom」によるオンライン講座を実施し、受講者の好評を得た(10回実施、延べ62人参加)。また、北公民館では令和2年度に開設したYouTubeチャンネルを充実させ、延べ34本を配信し、視聴回数は3,830回を記録した。また、講座だけでなく、講演会や学習グループの活動発表など多岐にわたる内容をインターネットを利用して情報発信することにより、多くの市民が公民館活動のことを詳しく知るきっかけとなっている。

③図書館の運営

・来館者数 543,548人、貸出者数 280,630人、貸出冊数 969,648冊の利用があった。
・「図書館を使った調べる学習コンクール」を実施し115人の応募があった。また、学校で、調べ学習を行ったり、授業での成果をはかる一環に加えられたことで、全国コンクールで佳作2点を受賞するなど作品の質の向上につながった。
・コロナ禍における取組みとして、電子図書館を導入し、自宅にいながら読書を継続できる環境を整備した。
・市民や地域に役立つ情報拠点として、主催事業の開催に合わせ関連する図書を紹介することで、来館者と本を結びつける場が広がった。また、電子書籍の拡充により、来館せずとも読書を継続できる環境拡大に繋げていく。
・調べる学習により、子どもは主体的に学ぼうとする意欲を持ち、自分なりのテーマを追究し、情報を活用する力「情報リテラシーの力」を身につけることにつながる。また、人が生涯を通じて学ぶための大きな力になることから、生涯にわたる読書習慣につなげていく。

④科学館の運営

・新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、夏の特別展「鏡の魔法展」を手作りのイベントである夏の企画展「貝がら展」に変更し開催した(入場者数 20,767人)。
・見て触れて学習できる企画展の開催により、科学に関する知識の普及・啓発の場としての利用が促進され、学びの環境・機会の充実につながった。
・利用者数:94,866人(展示室:30,444人、プラネタリウム:17,729人、全天周映画:3,043人、観望会:2,844人、教室等:3,130人、クラブ等:296人、講演会・イベント:37,380人)

⑤恐竜化石等研究調査

・化石発掘調査の結果、長崎における自然史の新しい学習資源となる270点の恐竜化石等を収集することができた。

⑥恐竜博物館の建設・運営

・長崎市産の恐竜を中核テーマとした博物館を令和3年10月に開館し、目標の57,000人を大きく上回る102,842人の来館があった。
・子ども国際シンポジウムには231人が参加し、長崎の恐竜に興味関心を持つきっかけとなった。

⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり

・「若者会議」については、進学・就職などに伴う参加者の減も生じたが、年度途中から参加者の追加募集を行ったことなどにより、令和4年4月時点において約30人が在籍しており、この中から、持続的に運営できる体制を検討するコアメンバーグループが結成された。
・「若者会議」の参加者が実現したいアイデアや企画をもとに生まれた9つのチームにおいて、全体会議などにおいて具体的な活動内容等に関する協議・検討を重ねた結果、地域社会に貢献する様々な活動が実行された。
・「長崎開港フェスタ450」において、体験スタンプラリーをはじめとした様々なイベントを実施した。体験スタンプラリーについては、400人を超える方が参加するなど、多くの方にイベントを楽しまれるとともに、「若者会議」の幅広い周知にもつながった。
・「若者会議」のホームページについては、参加者において随時更新が行われ、新たな情報が発信されたことで、若者の活動等の顕在化につながったとともに、新規参加者の応募受付数も増加した。
・若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場が定着してきたことで、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考える機会が増えた。

評価(問題点とその要因)

①学習開放事業

・学校施設の学習開放による利用内容が、コースや着付けなど公民館やふれあいセンターにおける活動内容と同種のものもあることから、公民館、ふれあいセンターを含めたコミュニティ活動施設としての適正配置及び費用負担の公平性の観点から事業のあり方を検討する必要がある。

②講座開設の取組み

・これまで公民館等を利用していない市民への利用促進が十分にできていないため、各種講座を行っているものの、参加者が固定化している傾向がある。

・情報通信技術を活用した講座についての周知不足や高齢者などデジタル機器に不慣れな市民が一定数存在すること、公民館側において情報通信技術を活用した講座を開催するという意識が希薄で、実施にあたってのノウハウも不足していることから、情報通信技術を活用した講座の参加者数や視聴回数、講座数が少ない。

③図書館の運営

・市立図書館の来館者数は、前年度より120,262人減少した。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館や開館時間の短縮が主な要因である。

・「図書館を使った調べる学習コンクール」の参加校が減少した。これは、児童生徒の図書館活用、及び図書館司書の授業への関わりを推進しているが、教員の認識の差など、学校によって温度差があることが主な要因と考えられる。

・市民への利用促進が十分にできていないため、電子書籍の利用が低迷している。

④科学館の運営

・ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、不要な接触を避けることを前提としSociety5.0にも対応した事業を実施するにあたり、現在の設備では不十分である。

⑤恐竜化石等研究調査

・恐竜博物館が開館間もないこともあり、収集した化石の館内展示や研究発表が十分行えていない。

⑥恐竜博物館の建設・運営

・恐竜博物館のオープン効果が薄まることで入館者数の伸び悩みが懸念される。

⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり

・「若者会議」の取組みをはじめ若者の活動を支援する体制が十分に整っていないため、事業を立ち上げて4年目となる令和5年度を目途に「若者会議」がそのコアメンバーグループによる自立的で持続的な運営体制を整えられるような状況には至っていない。

今後の取組方針

- ①学習開放事業
 ・施設の使用料など、公民館との均衡を図るため、施設の有料化も含め検討する。
- ②講座開設の取組み
 ・多くの住民が仲間づくり、地域づくりを進めることができるように公民館運営審議会等の意見を聞きながら、公民館の事業を企画する。
 ・公民館講座の企画内容や周知方法について、さらに工夫し市民にアピールする。
 ・平日(昼)に参加することができない受講者のため、市民が気軽に集まりやすい日時(土日、休日、夜間など)での講座開催、足を運びたい講座の把握に引き続き努める。
 ・ふれあいセンター及び町立公民館に対して講座の講師情報の提供や講座の企画支援などを行い、より多くの講座が実施されるよう働きかけを行う。
 ・デジタル機器の活用による不安のある市民へのパソコン、スマートフォン講座などを充実させる。
 ・情報通信技術を活用した講座を増やすため、先行して実施している館のノウハウを各館で共有するとともに、オンライン講座等の周知に努める。
- ③図書館の運営
 ・親子で絵本を読むことにより、子どもの豊かな感性や心を育み、生涯にわたる読書習慣につなげるとともに、市民の読書活動を推進するため、「おはなし会」など各種事業に取り組む。また、コロナ禍における「おはなし会」など読書活動の在り方について、検討する。
 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」については、今後も作品の質の向上及び応募者数の増加を図るため、引き続き図書館において、調べる学習関連の講座等を実施するほか、関係部局と連携してより一層の周知を行う。
 ・コロナ禍における新しい読書環境について、来館せずとも読書を継続できる電子図書館の活用を積極的に進める。
 ・第三次長崎市子ども読書活動推進計画に基づき、関係課、関係機関と連携し、取組みを推進する。
- ④科学館の運営
 ・展示室を利用した実験やイベント等、新たな事業に取り組む。
 ・プラネタリウムや科学実験・工作による、見て、触れて科学の不思議さを学べる取組みについて、科学館運営協議会や理科教員等の意見を聞きながら内容をさらに充実させる。
 ・Wi-Fi環境の整備に取り組み、小学校の団体見学での調べ学習への対応をはじめ、実験のオンライン配信等インターネットを活用した事業に取り組む。
- ⑤恐竜化石等研究調査
 ・発掘調査を継続的に実施しつつ、恐竜博物館の常設展示室や展望ホールを活用して研究調査成果を発信する。
- ⑥恐竜博物館の建設・運営
 ・恐竜博物館運営協議会の意見を聞きながら、新規来館者やリピーターの確保のため企画を充実させる。
- ⑦若者がチャレンジできる仕組みづくり
 ・「若者会議」の持続可能な運営の実現に向け、「若者会議」と長崎市との関わり方を整理するとともに、民間等と連携した若者の支援体制の充実を図る。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
公民館等の利用者数	1,331千人 (26年度)	↑ 目標値	1,360	1,385	1,410	1,435	1,460	1,343
		実績値	1,339	1,333	1,357	1,207	808	787
		達成率	98.5%	96.2%	96.2%	84.1%	55.3%	58.6%
公民館等の講座や教室の参加者数	92,145人 (26年度)	↑ 目標値	93,200	94,400	95,600	96,800	98,000	88,646
		実績値	83,116	86,829	95,995	85,830	30,621	40,295
		達成率	89.2%	92.0%	100.4%	88.7%	31.2%	45.5%
大型公民館における夜間、土日、休日に実施する公民館講座や教室の参加者数	10,268人 (26年度)	↑ 目標値	10,500	10,800	11,100	11,400	11,700	13,505
		実績値	14,652	12,930	13,026	13,240	4,616	6,782
		達成率	139.5%	119.7%	117.4%	116.1%	39.5%	50.2%
公民館等で開催される講座の参加者のうち、満足した人の割合	93.7% (26年度)	↑ 目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	98.0
		実績値	97.6	97.3	97.8	97.9	98.9	98.4
		達成率	102.7%	102.4%	102.9%	103.1%	104.1%	100.4%
ふれあいセンター等において実施された現代的課題・地域課題講座の件数	143件 (26年度)	↑ 目標値	160	185	210	235	260	196
		実績値	160	182	246	205	135	138
		達成率	100.0%	98.4%	117.1%	87.2%	51.9%	70.4%

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード: G2-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 学校校舎開放関連運営費 【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 市民に学校の会議室等を学校教育に支障のない範囲で地域に開放することにより、学習の機会を図る。</p> <p>(事業概要) 市立小学校8校、中学校6校(令和2年度から事業の見直しにより小学校3校のみ)の会議室等を学校の運営時間外に市民に開放する。 (平日:夜間 土・日・祝日:終日) 「長崎市立学校の施設の開放に関する規則」により、運営を各学校学習開放運営協議会へ委託している。</p>	成果指標	利用者数
		目標値	9,544 人
		実績値	10,631 人
		達成率	111.4 %
		決算(見込)額	744,400 円
		<p>成果指標及び目標値の説明</p> <p>取組実績、成果・課題等</p>	<p>利用者の増が、施設の有効利用が図られていると考えられるため、利用者数を成果指標とした。 実績値9,357人(令和2年度)の2%増を目標値とした。</p> <p>(取組実績) 開放回数 858回 利用者数 10,631人 登録団体 40団体</p> <p>(成果・課題等) 運営協議会の数は令和2年度と同じ3校であり、登録団体数も変化はなかった。 新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、施設の臨時休館や施設利用の新規予約受付中止などを行った。 近隣の公民館やふれあいセンターと同様に、生涯学習の場として利用する施設として、開放のあり方について検討していく。</p>
2	<p>(事業名) 科学館運営費 【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 科学に関する知識の普及及び啓発並びに科学教育の振興を図り、市民の文化の向上に資する。</p> <p>(事業概要) 長崎市科学館の管理運営。 平成22年度より指定管理者である長崎ダイヤモンドスタッフ(株)による運営。</p>	成果指標	利用者数
		目標値	170,000 人
		実績値	94,866 人
		達成率	55.8 %
		決算(見込)額	149,800,256 円
		<p>成果指標及び目標値の説明</p> <p>取組実績、成果・課題等</p>	<p>科学館を利用することで、事業目的が達成されると考えられることから、利用者数を成果指標とした。 各年度の利用者数を基に、目標値を設定した。</p> <p>(取組実績) ・展示室 30,444人 ・プラネタリウム 17,729人 ・全天周映画 3,043人 ・観望会 2,844人 ・教室等 3,130人 ・クラブ等 296人 ・講演会、イベント 37,380人</p> <p>(成果・課題等) 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、夏の特別展「鏡の魔法展」を手作りのイベントである夏の企画展「貝がら展」に変更し開催したこと、臨時休館となった期間に開催予定であった事業について日程を変更し開催したことなどにより、令和2年度に比べて休館期間は長くなったものの、利用者数は増加した。 今後も、何度来ても楽しめるような工夫の継続と、「数の成果」を追求するだけでなく、「質の成果」を追求する姿勢を持ち、科学館の設置目的に沿った運営に努める。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
3	<p>(事業名) 恐竜化石等研究調査費</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 白亜紀後期の三ツ瀬層(約8100万年前)の恐竜・翼竜化石が長崎市から発見され、今後も化石発見の可能性が高いと言われていることから、長崎における自然史の新しい学習資源とするため、化石の発掘・保存を行う。</p> <p>(事業概要) 福井県立恐竜博物館との共同研究事業として、毎年1~2週間程度の発掘調査を行い、福井県立恐竜博物館において、剖出(周囲の砂岩等取り除く作業)・鑑定した後、恐竜博物館において保存、展示する。</p>	成果指標	動物化石標本の数
		目標値	30 点
		実績値	270 点
		達成率	900.0 %
		決算(見込)額	8,952,857 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>発掘により出土し、剖出(周囲の砂岩等取り除く作業)・鑑定したのち、動物化石と判断された標本の数を成果指標とした。</p> <p>目標値については、これまで見つかった動物化石をもとに、福井県立恐竜博物館の研究員と協議のうえ設定した。</p>
4	<p>(事業名) 恐竜博物館建設</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 長崎半島から多数発見されている多種多様な化石を中核テーマとした調査研究や資料収集・展示及び教育活動支援を行うため、恐竜博物館を建設する。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成30年度~令和3年度 【総事業費】1,894,750千円</p>	成果指標	事業進捗率(事業費ベース)
		目標値	100.0 %
		総事業進捗率	100.0 %
		達成率	100.0 %
		決算(見込)額	371,782,908 円
		当該年度執行率	19.6 %
		成果指標及び目標値の説明	<p>事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率として、成果指標とした。</p> <p>当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 令和3年3月に建物が完成、令和3年9月までに展示内装工事が完了した。</p> <p>(成果・課題等) 令和3年10月、予定通りに恐竜博物館が開館した。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
5	<p>(事業名) 大型公民館講座開設費 【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 市民が生涯を通していきいきと暮らせるように、「知の循環型社会」を実現する。</p> <p>(事業概要) 市民の学習ニーズに応えるとともに、各大型公民館等において地域課題等の様々なテーマについて学習するために、幼児から高齢者まで、生涯各期に応じた講座を開設する。</p>	成果指標	講座等利用者総計(人)
		目標値	53,300 人
		実績値	26,050 人
		達成率	48.9 %
		決算(見込)額	5,307,731 円
		成果指標及び目標値の説明	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。令和2年度目標値の1%増を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座等 25,476人(1,424回) 研修会等 574人(11回) <p>(成果・課題等) 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため講座等が中止となり、目標値には達成しなかったが、講座に対する満足度は9割を超えている。引き続き誰もが受講しやすい環境整備を進め、受講者増に向けた取組みを行う必要がある。</p>
6	<p>(事業名) 地区公民館講座開設費 【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 市民が生涯を通していきいきと暮らせるように、「知の循環型社会」を実現する。</p> <p>(事業概要) 市民の学習ニーズに応えるとともに、各地区公民館等において地域課題等の様々なテーマについて学習するために、幼児から高齢者まで、生涯各期に応じた講座を開設する。</p>	成果指標	講座等利用者総計(人)
		目標値	13,700 人
		実績値	5,258 人
		達成率	38.4 %
		決算(見込)額	618,000 円
		成果指標及び目標値の説明	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。令和2年度目標値の1%増を目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座等 5,258人(324回) (ふれあいセンターへ移行した館を含む) <p>(成果・課題等) 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため講座等が中止となり、目標値には達成しなかったが、講座に対する満足度は9割を超えている。引き続き誰もが受講しやすい環境整備を進め、受講者増に向けた取組みを行う必要がある。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
7	<p>(事業名) 図書館を使った調べる学習コンクール事業 【市立図書館】</p> <p>(事業目的) 図書館にある豊富な資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、その活動において、公共図書館、学校図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を認識し、今後の図書館の利用促進につなげていく。</p> <p>(事業概要) 図書館等を利用し、調べ物学習を行い、その結果をレポートとして作成し、1つの作品として応募されたものについて、審査を行い、優秀作品を表彰する。</p>	成果指標	応募者数
		目標値	180 人
		実績値	115 人
		達成率	63.9 %
		決算(見込)額	20,541 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、今後の図書館等の利用促進につながっていくため、応募者数を成果指標とした。 過去3年間の応募者数の平均値から目標値を設定した。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 応募者数 115人 (内訳) 小学生低学年: 18人 小学生中学年: 49人 小学生高学年: 27人 中学生: 20人 高校生: 0人 一般: 1人</p> <p>(成果・課題等) 参加校は、小学校で7校、中学校で2校減った。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止による学校生活の変化に伴い、調べ学習にあてる時間を取りにくくなったことにより、応募校が減少する結果となった。 全国コンクールへ2点の作品を推薦したところ、2点が佳作を受賞した。 引き続き、学校教育課等と連携し、さらなる周知を図り、応募者数を増やすとともに、全国コンクールでの入選作品を増やす必要がある。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
8	<p>(事業名) 「長崎×若者」推進費 【都市経営室】</p> <p>(事業目的) 若者から「選ばれるまち」を目指し、「若者が楽しむことができる場」、「若者がチャレンジできる場」をつくることで、「若者が楽しめ、活躍できるまち」とする。</p> <p>(事業概要) 若者の楽しみに関する調査・分析結果に基づき、若者が楽しむことができる場を創出するとともに、若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる仕組みを構築する。</p>	成果指標	ながさき若者会議で実施されている活動の数
		目標値	8.0 件
		実績値	9.0 件
		達成率	112.5 %
		決算(見込)額	1,829,115 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>「ながさき若者会議で実施されている活動の数」は、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考える機会につながるものと考えられるため成果指標とした。</p> <p>また、令和3年度4月時点で8件の活動が実施されていたため、それらが継続されることを目標とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の状況 約30人が参加(R4.4時点) ・全体会議の状況 月1回程度開催 ・活動の数 9件(9チームが活動) ・「長崎開港フェスタ450」におけるスタンプラリー企画への参加者数 400人超 ・ホームページのページビュー数 7,688PV (R4.1.11(HP開設)～R4.3.31) <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15～34歳の若者が実現したいアイデアや企画を出し合い、チャレンジできる場が定着してきたことで、若者が主体的に地域活性化や地域課題解決等を考える機会が増加したほか、イベントやホームページ等を通じて若者の活動に関する情報が発信されたことなどにより、若者の活動の顕在化が図られた。 ・事業を立ち上げて4年目となる令和5年度に向け、「ながさき若者会議」が持続的に運営できる体制を整え、チャレンジできる仕組みづくりを一定完了させるため、「ながさき若者会議」と長崎市との関わり方を整理するとともに、民間等と連携した若者の支援体制の充実を図る必要がある。 		

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	G2-2	能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図		
	市民が	学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かしている。		
個別施策主管課名	生涯学習課	所属長名	金原 久美子	

令和3年度の取組概要

①生涯学習における人材情報の充実

- ・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」への登録者に継続の意思があるかどうか確認し、名簿を整理した。また、各公民館に対し、公民館講座の講師に対する登録への働きかけの協力依頼を行った。なお、公民館の類似施設であるふれあいセンターに対しても、講師情報の提供を行った。
- ・県及び「長崎市PTAを支援するファシリテータの会」とともに、ファミリープログラムファシリテーター認定及びフォローアップ研修会を開催し、新たなファシリテーターの養成と、既に登録のあるファシリテーターのスキルアップを図った。

②ボランティアの活用

- ・地域住民が自ら公民館を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、公民館支援ボランティアへの登録制度を周知し、ボランティアによる公民館講座での受付・案内、館外活動での受講者の誘導等の活動を実施した。なお、中央公民館では公民館支援ボランティアが、オンライン講座を企画、立案し、当日の運営を行なった。
- ・「長崎市PTAを支援するファシリテータの会」の協力を受け、学校や学級単位で、家庭教育の充実を図るためのファミリープログラムを実施した。
- ・図書館利用者が自ら図書館を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、図書の配架やクリッピング、イベントサポーター等の活動をボランティアにより実施した。

評価(成果)

①生涯学習における人材情報の充実

- ・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」の登録者に関しては、県が運営するホームページ「ながさきまなびネット」と連携し、講師情報を広く発信しており、公民館、ふれあいセンター等の幅広い分野での講座開設につながっている。
- ・研修会の開催により、新たに4人がファミリープログラムファシリテーターに登録されこと、また、コロナ禍で実践活動ができていないファシリテーターにとってスキル維持向上する機会となったことで、今後の家庭教育の充実につながった。

②ボランティアの活用

- ・中央公民館においては、公民館支援ボランティアが企画・運営した講座を平成30年度から継続して実施しており、活動者のモチベーションの向上やスキルアップにつながっている。特にコロナ禍において新たにオンライン講座に取り組んだことで、さらなるモチベーションの向上につながっている。
- ・ファミリープログラムファシリテーターの活動においては、コロナ禍で会話を制限せざるを得ないなかで、「文字」を使ってやり取りする方法を取り入れ、参加者に対し、自らの考えを文字にすることの難しさ、また文字という「形」にして人に見せることを体感させることができたことで、これまで以上に参加者にとって保護者としての成長を促す機会となった。
- ・図書館利用者が自ら図書館を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、図書の配架やクリッピング、イベントサポーター等の活動をボランティアにより実施した。新型コロナウイルス感染症の拡大防止による臨時休館で、自主イベントの中止や活動制限により、活動実績は、昨年度より減少した。

評価(問題点とその要因)

①生涯学習における人材情報の充実

・生涯学習に関する人材バンク登録者に関しては、生活環境の変化や転居等で活動できなくなった方が一定数存在すること、また、教えるスキルがあっても登録には抵抗感があり新規登録までには至らないことなどにより、前年度より減少した。(令和2年度:161人 → 令和3年度:135人)
 ・ファミリープログラムファシリテーターの登録者には就労世代が多いことなどから、活動可能な実人員が固定化されている。

②ボランティアの活用

・地域の学習活動等へのボランティア延べ参加者数は、前年度より68人(3.4%)増加したものの、コロナ禍以前と比較すると活動回数が大幅に減少している。
 なお、そのうち公民館支援ボランティアと科学館サイエンスサポーターへ延べ参加者数は、コロナ禍において活動方法を工夫することで活動機会を確保に努めいずれも増加した。一方、図書館ボランティアに関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い臨時休館や開館時間の短縮などで活動できる日が減少したことにより、参加回数、延べ参加者数ともに減少した。

地域の学習活動等へのボランティア参加者数

(令和2年度:614回、1,981人 → 令和3年度:664回、2,049人)

【主な内訳】

公民館支援ボランティアへの参加者数 (令和2年度:168回、369人 → 令和3年度:664回、459人)

科学館サイエンスサポーターへの参加者数 (令和2年度:0回、0人 → 令和3年度:3回、16人)

図書館ボランティアへの参加者数 (令和2年度:420回、1,529人 → 令和3年度:409回、1,489人)

今後の取組方針

①生涯学習における人材情報の充実

・「学びあいサポートバンク」への登録制度について、引き続き公民館等での周知に取り組むとともに、登録とまではいなくても身近な人材の情報把握や情報共有に努める。

・ファミリープログラムファシリテーターについて、引き続き、研修会を開催するなど登録しやすい環境づくりに努める。

②ボランティアの活用

・コロナ禍で中止となった講座やイベントが再び実施できるように、感染症予防対策を確実に実施し安全な環境を整備することで、ボランティアの参加機会の創出につなげていく。・ボランティアの登録者数を増加させるため、活動内容の紹介を随時行うとともに、活動しているボランティアが望んでいる活動内容を把握し、魅力的な活動となるように努める。

・図書館ボランティアの活動を通じて、より良い図書環境をつくるため、地域社会に貢献しようとする市民と協働する体制の強化に努める。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値(時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
生涯学習に関する人材バンク登録者数	283人 (26年度)	↑ 目標値	289	293	297	301	305	234
		実績値	254	263	186	164	161	135
		達成率	87.9%	89.8%	62.6%	54.5%	52.8%	57.7%
地域の学習活動等への支援者数	3,004人 (26年度)	↑ 目標値	3,120	3,240	3,360	3,480	3,600	3,102
		実績値	3,059	3,213	3,034	3,100	1,981	2,049
		達成率	98.0%	99.2%	90.3%	89.1%	55.0%	66.1%

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード: G2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 生涯学習に関する人材情報の充実 【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 講座や仕事などで習得した知識や経験、技能を有する人材を市民の学習活動に活かすことにより、市民が学び合い、支えあい、いきいきと暮らすまちづくりに資する。</p> <p>(事業概要) 自発的な意思によって学習活動等の支援を希望する個人又は団体の情報について、承諾された方については県のホームページで公表するとともに、講師になりうる人材の把握につとめ、市役所における講師人材情報提供の窓口としての役割を果たす。</p>	成果指標	参加者数
		目標値	234 人
		実績値	135 人
		達成率	57.7 %
		決算(見込)額	0 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>能力や経験を社会に生かすために人材バンクに登録している数を成果指標とした。 コロナ禍以前の平成28年度から平成30年度までの3カ年の平均登録者数を目標値とした。</p>
2	<p>(事業名) 公民館支援ボランティアの活用 【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 地域住民の活動拠点となる公民館において、住民参画型の公民館活動のより一層の充実と発展を図る。 地域住民のボランティア意識の高揚及び地域課題解決のための活動に参加・参画できる仕組みづくりを行う。</p> <p>(事業概要) ボランティアに登録した方が次の活動を行う。 ・公民館講座での受付・案内 ・館外活動での受講者の誘導、安全確保 ・講座等の企画・運営 ・各種イベントの補助(サポート) ・公民館の環境整備、広報の補助</p>	成果指標	参加者数
		目標値	685 人
		実績値	459 人
		達成率	67.0 %
		決算(見込)額	190,850 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>公民館講座の企画運営に参画するボランティアの数を成果指標とした。 コロナ禍以前の平成28年度から平成30年度までの3カ年の平均参加者数を目標値とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ・中央 283人(138回) ・東 24人(15回) ・西 52人(35回) ・南 90人(28回) ・北 0人(0回) ・滑石 10人(10回)</p> <p>(成果・課題等) コロナ禍の影響もあったが、活動者は昨年度に比べのべ90人増加した。今後も引き続きボランティア登録者を増やすこと及び活動内容の周知を行うことにより、活動機会の増加を図る必要がある。また、地域の学習活動等へのボランティア活動に対する関心を喚起させるような内容を見直す必要がある。</p>		

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード: G2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
3	<p>(事業名) 図書館ボランティアの活用 【市立図書館】</p> <p>(事業目的) ボランティア活動を通じて、地域社会へ貢献しようとする市民とともに、よりよい図書環境をつくるため、市民と図書館との協働体制を構築する。</p> <p>(事業概要) ボランティアに登録した人たちが次の活動を行う。 ・図書の装備や配架 ※図書の装備とは、図書をビニールのフィルムでカバーしたり、バーコードなどを貼ったりすること。 ・新聞のクリッピング ・図書館等での読み聞かせ等</p>	成果指標	参加者数
		目標値	1,800 人
		実績値	1,489 人
		達成率	82.7 %
		決算(見込)額	20,541 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>ボランティア活動の状況を把握するため、参加者数(延人数)を成果指標とした。 ボランティアが取り組む活動実績をもとに、過去4年間の平均値を目標値とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配架 515人(188回) ・装備 620人(95回) ・クリッピング 275人(87回) ・読み聞かせ 0人(0回) ・イベントサポート 42人(13回) ・YA(学生)ボランティア 37人(26回) <p>(成果・課題等) 図書館のボランティアとして登録した人たちが、図書の装備や読み聞かせ等の活動を行い、図書環境の整備に寄与した。 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い臨時休館や開館時間の短縮などで活動できる日が減ったために、参加者数・参加回数ともに減少した。</p>		